

風土記の丘の花だより¹⁴²

今、そしてこれから見られる植物(2022年7月9日)

台風4号崩れの温帯低気圧は、野山の草木に潤いを与えてくれました。もちろんそれで被害にあった方もいらっしゃるでしょう。お見舞い申し上げます。さて、こんなに暑いのにもう秋の七草のキキョウが咲いたことはNo.139ですでお知らせしました。続いて同じく万葉植物園で、オミナエシもナデシコも咲き始めました。



オミナエシは去年7月7日に咲きました。今年は6月28日でしたから、10日ほど早かったこととなります。秋の七草なのに、こんな暑い盛りに咲かずに、涼しくなるのを待てばいいのにと思います。



下のナデシコ(本当の名前はカワラナデシコ)は去年7月6日に咲きましたから、偶然かもしれませんが、今年と同じです。ところで、万葉植物園には、万葉集に詠われた植物「万葉植物」の他にもたくさんの草木が生えています。万葉の昔もそうだったと思います。数多くの草木の中で、自分の心が動いたもの、誰かのイメージや自分の思いが重なる植物を見つけて歌に詠んだのでしょう。見渡す限り万葉植物だったはずがありません。これをご覧になる頃にはユリも咲いていることでしょう。草むらの中にあつてこそ、ユリの美しさが際だつのではないのでしょうか。その他の万葉植物もそんな見方をして下されば幸いです。



何かぶら下がっているだけで、花らしくないけど、よく見ると花に見える。ヒメドコロの花です。ヤマノイモの仲間のつる植物です。木に巻き付いているときは、他のつる草と絡み合って、何が何だかよく分からなくなっています。見てもそれほど感動しないかもしれません。その場合は悪しからず。



植木などにヤブガラシが絡みつき、花を咲かせています。「ガラシ」は「辛子」ではなく、「枯らし」のことです。やぶに覆い被さるように絡みつき、やぶを枯らしてしまうというのが語源です。ブドウの仲間ですが、食べられるような実はありません。 松下